本院看護部（総合外来センター）
乳がん看護認定看護師　本間亜希子

ー 乳がん看護認定看護師の役割と活動 ー

【乳がん看護認定看護師の役割】

乳がん看護認定看護師は乳がん医療の分野で、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護実践を行います。600時間の乳がん看護認定看護師教育課程を修了し、日本看護協会認定看護師認定審査に合格することで資格を得ることができます。乳がん看護認定看護師の役割は多岐にわたりますが、乳がん診療に関する最新の知識をアップデートしながら患者さんの治療選択の場面で意思決定を支援することや、乳がんに罹患したことに関連する心理社会的問題に対する支援などを主に行っています。術後の合併症として患側の腕にむくみが生じることもあり、生活に支障をきたさないよう早期からセルフケア指導で関わることも大事な仕事の一つです。目の前の患者さんが抱える問題にフォーカスし、医師や他分野の専門家たちと多職種連携で協働しながら活動しています。

ブレストケアチーム

【臨床での活動】

今から20数年前、東病棟２Fにあった一般外科外来の診察室前の廊下では、ビニール袋を片手にうなだれながら並んで抗がん剤治療を受けるたくさんのがん患者さんたちがいました。小さなお子さんを抱え、どうしたら一カ月でも、一日でも長く生きられるだろうか、と涙する患者さん達に対し、私はとても無力でした。深く思い悩む若い乳がん患者さんに、同じ女性として、看護師として、何かできることはないのだろうか。がんとはいったいどんな病気なのか、がん患者に対して看護師はどのような知識をもつべきなのか、と手あたり次第にがん看護について勉強をし始めエキスパートナースを目指そうと志を持ちました。2010年乳がん看護認定看護師の資格を得てからは院内外の先生方や、病棟、外来の看護師、ソーシャルワーカーさんなどたくさんのスタッフから〝悩みを抱える乳がん患者さんがいる〟とお声掛けいただけるようになり、乳がん診療チームの一員として活動を続けてまいりました。 乳がん看護認定看護師になって15年目を迎えようとしていますが、乳がん診療は年々進化していることを肌で感じます。夢のような話だったゲノム医療における遺伝子検査や、新薬の数々、がん罹患のリスク低減を目的とした予防的手術も一定の条件下では保健医療で行える時代となりました。また、乳がんだけではありませんが、化学療法を行わなければならない若い世代の患者さん達には妊孕性の温存について医師も積極的に働きかけてくれるようになり、乳がんは「不治の病」から「うまく付き合いながら一緒に生きていく慢性病」というイメージにもなってきています。「乳がんになっても自分らしく」前を向いて生きていけるよう、微力ながら支えであり続けたい、そんな日々を過ごしています。